

# 初 級 読 解

2003 年 7 月

編集：北京平成日本語学校

原典：東海大学留学生教育センター編『日本語 初級 』

## 知人への手紙

いよいよ暑い夏がやってきました。ごぶさたしています。お元気ですか。

私は毎日元気に通学しています。こちらへ来る前は、日本でひとりで生活するのはたいへんだろうと思いましたが、今ではもう日本の生活にもすっかりなれました。同封した写真は、先日富士山に登ったときに写したものです。ちょっとふとったでしょう。

来週から夏休みに入りますが、国へは帰らないので、休みの間、アパートの近くにある印刷工場でアルバイトをしたいと思っています。4ヶ月ぐらい先の話ですが、11月の中旬ごろ、大学の研修旅行で、京都、奈良方面へ行きます。そのときに、ひさしぶりに会うことができるかもしれません。そのうち、くわしい旅行の日程をお知らせします。

それでは、お兄さんにもよろしく伝えてください。

7月10日

スラメット

【新出単語】	ちじん（知人）	すっかり	どうふう（同封） - する
	せんじつ（先日）	いんさつ（印刷） - する	さき（先）
	ちゅうじゅん（中旬）	ほうめん（方面）	ひさしぶり（久し振り）
	そのうち	くわしい（詳しい）	にっぺい（日程）
	しらせる（知らせる）	よろしくつたえてください (よろしく伝えてください)	

## クリーン・ルーム

みなさんは、クリーン・ルームを知っていますか。クリーン・ルームは小さなほこりもシャットアウトするきれいな部屋です。コンピュータの部品を作るとき、部屋がきたないと、ほこりが部品についてコンピュータの故障の原因になります。ですから、コンピュータ工場には、ほこりのない清潔な部屋が必要です。

部屋の中の気圧を高くすると、ほこりは部屋に入りません。ですから、クリーン・ルームはほかの部屋より気圧が高いです。また、風を流すと、ほこりがたまりません。ですから、この部屋の中はいつも弱い風が流れています。

人はいろいろな所を歩きますから、たくさんほこりがついています。その人が部屋に入ると、ほこりもいっしょに入ります。クリーン・ルームの入口には、風のシャワーがあって、人が部屋に入るとき、そのシャワーでほこりをとらなければなりません。かみの毛にもほこりがついています。ですから、この部屋に入るときには、特別なぼうしをかぶらなければなりません。くつもいろいろな所を歩いてほこりがついていますから、くつをかえなければ入ることができません。それで、入り口には、「くつをぬげ」、「ぼうしを忘れるな」などという注意書きがはってあります。

このように、コンピュータ工場は毎日ほこりとたたかっています。

【新出単語】 クリーンルーム	ちいさな(小さな)	ほこり(埃)
シャットアウト - する	ぶひん(部品)	こしょう(故障)
げんいん(原因)	せいけつ(清潔)	きあつ(気圧)
ながす(流す)	たまる(溜まる)	よわい(弱い)
ながれる(流れる)	〔埃が〕つく(付く)	いりぐち(入口)
とくべつ(特別)	かぶる(被る)	かえる(換える)
ちゅういがき(注意書き)	はる(貼る)	たたかう(戦う)

## かいだん（怪談）

これは私が山の中の小さな旅館にとまったときの話だ。その晩はたいへん暑くて、寝ようとしてもなかなか寝られなかった。しかたなくあまり好きではない酒を飲んで、ふとんの中で目を閉じた。すると、「夜おそくすみません。」と私を呼ぶ女の人の声が聞こえた。もう十二時も過ぎていたから、あしたにしてくれと言ったのだが、大切な話があるからちょっと聞いてくれと言う。そして、着物を着たひとりのやせた女性が部屋の中ですうっと入ってきた。その顔は青白くくちびるはむらさきで、目だけがひかっている。ざぶとんの上にすわると、私の方を見て、「この旅館はあぶない。早くうちへ帰りなさい。」と言う。そして、そう言っているうちに、すがたがだんだん消えていって、ついに見えなくなった。

次の朝、私は旅館の人にその女性の話をしたが、みんな、そんな女性は知らないと言い、だれも私の話を信じようとしなかった。私は気味が悪くなって、その日、急いでお金を払って旅館を出た。そして、次の日、この旅館が火事でやけて、たくさんの人が死んだという記事を見つけた。なくなった人の写真がのっていたが、一人だけ名前がわからない女の人の写真があった、その人は十年前、その旅館の前の主人といっしょに自殺した女性によくにているという。じつは、あの夜、私の部屋に入ってきて話をしたのもこの女性だった。

【新出単語】	かいだん（怪談）	りょかん（旅館）	なかなか
	とじる（閉じる）	すると	じょせい（女性）
	ずうっと	あおじろい（青白い）	くちびる（唇）
	むらさき（紫）	ひかる（光る）	ざぶとん（座布団）
	すがた（姿）	ついに	しんじる（信じる）
	きみ（気味）	やける（焼ける）	きじ（記事）
	みつける（見つける）	なくなる（亡くなる）	しゅじん（主人）
	じさつ（自殺） - する		

## 「保証人への手紙」

前略

先日はごちそうさまでした。ひさしぶりに日本の家庭料理をおなかいっぱいいただきました。ところで、あのときにご相談しました私の進学のことなのですが、アドバイスにしたがって、次の日さっそく父に電話しました。私は「文学が大好きです。文学部に進ませてください。」としょうじきに言いましたら、たいへんしかられました。「日本文学を勉強しても、しょうがない。文学部へ行かないで、どんなことがあっても工学部へ行け。」と言うのです。高校進学の時も、私は希望したところにいけませんでした。そのときから大学の進路は自分で決めたいと思っていました。しかし、父のかんがえも無視できませんから、この二週間ずっとかんがえましたが、日本文学を学んで、将来ほんやくの仕事をしたいという私のゆめはどうしてもすてられません。きのう日本の先生にも相談し、やはり文学部へ進むことにしました。

「文学部に入ったら、学費は一円も出さないぞ。」と父にどなられました。そのときになれば、そんなことはしないだろうと思います。でも、やはり心配ですから、今度の冬休みに国へ帰って、父とよく話し合うつもりです。

そこで、ひとつお願いがあるのですが、私が国へ帰るまでに、田中さんから手紙でわたしの気持ちや文学部の内容について、父に説明してくださいませんか。かってなお願いでもうしわけありませんが、よろしくお願いします。

これからだんだん寒くなりますが、お体にお気をつけください。

草々

十一月二十五日

ポンチャイ

田中安男様

【新出単語】	ぜんりやく（前略）	ごちそうさまでした	おなかいっぱい（お腹いっぱい）
	いただく（頂く）	ところで	しんがく（進学） - する
	したがう（従う）	さっそく（早速）	ぶんがく（文学）
	しょうじき（正直） - な	にほんぶんがく（日本文学）	しょうがない
	しんろ（進路）	かんがえ（考え）	むし（無視） - する
	やはり	がくひ（学費）	どなる（怒鳴る）
	ないよう（内容）	かって（勝手） - な	もうしわけない（申し訳ない）
	よろしくおねがいします (よろしくお願いします)	そうそう（草々）	やすお（安男）

## 「工場見学」

先日、自動車工場の見学があった。自動車の工場を見せてもらえるいいチャンスなので、参加することにした。

当日、午前9時、学校の南門の前に集合した。先生は3人、学生は全部で40人だった。

工場では係りの人が門の前まで出て来て、私たちの国のはたを立ててあった。私たちが来るので、はたを立てておいてくれたのだろう。

そこで、まず、工場長が出て来てあいさつした。そのあと、係りの人が自動車について説明してくれたが、よく分からないところがあった。それで、いっしょに行った人に通訳してもらった。それから、実際に自動車を作っている工場に入ることになった。

係りの人はヘルメットを私たちにわたして、「工場の中ではヘルメットをかぶってください。それから、写真はとらないでください。」と言った。

工場では、動いているのはロボットだけだった。ロボットを動かしている人のすがたも見られなかった。

「コンピュータでロボットを動かしているんです。まず、仕事のやりかたや順序をコンピュータにおぼえさせておきます。組み立てられる自動車ベルトで運ばれますから、ロボットはそこにおいてある材料を取って、その車に取りつけているんです。」

係りの人はこう説明した。

工場内は明るくて、非常にきれいだった。あちらこちらに「安全第一」のポスターがはってあった。

【新出単語】	チャンス	とうじつ(当日)	はた(旗)
	たてる(立てる)	まず	こうじょうちょう(工場長)
	~について	じっさい(実際)	ヘルメット
	うごく(動く)	ロボット	うごかす(動かす)
	じゅんじょ(順序)	くみたてる(組み立てる)	ベルト
	ざいりょう(材料)	とりつける(取り付ける)	~ない(内)
	あちらこちら	「あんぜんだいいち」 (安全第一)	ポスター

## 原爆（げんばく）

1945年8月6日広島に、9日には長崎に原子爆弾が落とされました。そのときの様子を、当時小学校3年生だった人が次のように書いています。

「庭先のへいの向こう側でピカッとものすごく、そして、とてもするどく光ったのを、たしかにわたしは見ました。わたしはとてもびっくりしました。そのとき走ったのかふきとばされたのか、どうしても分かりませんが、気がついたらへやに置いてあったたんすの下じきになっていました。わたしは痛いとも、苦しいとも感じませんでした。ただ、恐ろしさに体はぶるぶるふるえていました。」

草も木も家も、そして人もやかれ、広島、長崎合わせて20万人以上の方が死んでしまいました。両市とも今ではすっかりきれいな町になりましたが、原爆のきずあとはまだ消えていません。今でも原爆の後遺症でしみながら不安な毎日をすごしている人もいますし、なくなっていく人もあとをたちません。

広島にはこわれたままのドームが残されています。これは広島の市民が原爆の恐ろしさを忘れないようにしようという思いをこめて残しておいたものです。

長崎には平和の像が作られています。この像は、右手は高く天を指して原爆の恐ろしさを表し、左手は水平にのばして世界の平和を表しています。

広島と長崎には世界からおおぜいの人々が訪れます。そして、慰霊碑に花をそなえたり、平和のかねをならしたりして、世界の平和を祈ります。

【新出単語】	げんばく（原爆）	ながさき（長崎）	げんしばくだん（原子爆弾）
	とうじ（当時）	にわさき（庭先）	へい（塀）
	ピカッと	ものすごい	するどい（鋭い）
	たしかに（確かに）	ふきとぶ（吹き飛ばす）	したじき（下敷き）
	かんじる（感じる）	ただ	ぶるぶる
	ふるえる（震える）	あわせる（合わせる）	りょう～（両）
	きずあと（傷跡）	こういしょう（後遺症）	くるしむ（苦しむ）
	ふあん（不安）- な	すごす（過ごす）	あとをたたない（後をたたない）
	ドーム	おそろしい（恐ろしい）	おもい（思い）
	こめる（込める）	へいわ（平和）	ぞう（像）
	てん（天）	さす（指す）	すいへい（水平）
	のばす（伸ばす）	おとずれる（訪れる）	いれいひ（慰霊碑）
	そなえる（供える）	かね（鐘）	ならず（鳴らす）

## 「旅行の思い出」

先週、クラスの友だちといっしょに3泊4日の旅行に行った。

1日目は奈良へ行き、東大寺などの寺を見た。その晩は奈良駅の近くのホテルに泊まった。そのホテルは日本式だった。畳の部屋で食事をするのはなれていないので、食べにくかった。お風呂は大きくて気持ちよかった。友だちは泳ぎたがって、だれもいなくなるまでお風呂の中で待っていた。私は長く入りすぎて、のぼせてしまった。

2日目は京都へ行って、金閣寺を見た。金閣寺は以前写真で見たとおり、たいへん美しかった。夜は京都料理を食べたり、おみやげを買ったりした。

3日目は広島へ行く予定だったが、台風のために新幹線が止まってしまった。私たちは京都駅の待合室でイライラしながら3時間待った。運転が再開したとき、私たちは乗り遅れないようにホームへ急いだ。しかし、乗客がいっぱいで乗ることができなかった。結局、次の電車で行ったが、広島に着いたのは夕方だった。

今度の旅行は、このようにいろいろなことがあって、たいへんだったが、いい経験になった。

【新出単語】 おもいで(思い出)

とうだいじ(東大寺)

~しき(式)

たたみ(畳)

のぼせる

きんかくじ(金閣寺)

いぜん(以前)

まちあいしつ(待合室)

さいかい(再開) - する

のりおくれる(乗り遅れる) ホーム

けっきょく(結局)

## 「電車の中の日本人」

日本へ来てまだ3か月しかたっていないが、日本人の行動の中で理解できないことがある。

日本へ来たばかりのころは電車のシルバーシートの意味を知らなかったので、空いているときはそこに座っていた。あとで、シルバーシートはお年寄りや体の不自由な人のための席だと知って、とてもはずかしい思いをした。

ところが、よく注意してみると、シルバーシートと書いてある席にわかい人が座っていることがよくある。しかも、重そうな荷物を持っているお年寄りがそばに立っていても、席をゆずろうとしないで、そのまま座り続けている若者が多い。もちろんお年寄りを見かけたら、すぐに席をゆずるわかものもいるが、それは大変少ない。何かゆずりにくい理由があるのだろうか。それとも、お年寄りが少し遠慮しすぎているのだろうか。

日本人は礼儀正しい国民だと言われる。このことと電車の中のわかものとの関係をどう考えればいいのか。私にはどうしても理解できないのである。

【新出単語】	こうどう（行動） - する	りかい（理解） - する	シルバーシート
	あく（空く）	ふじゆう（不自由） - な	しかも
	みかける（見かける）	りゆう（理由）	それとも
	えんりょ（遠慮） する	れいぎただしい（礼儀正しい）	

## 大きくて小さな地球

あなたは星が好きですか。私は夜、外に出て一人で星をながめていると、宇宙の大きさと人間の小ささを感じるのです。天文学の本を読むと毎晩見ているたくさんの星は、私を感じているよりもずっと遠いところにあるということが分かって、不思議な気持ちになります。月や金星のように近いところにある星もありますが、夜空に輝くほとんどの星は、光と同じ速さで飛んで行っても何万年もかかるようなところにあるのだそうです。つまり地球に植物もなく、動物もまだいなかったような遠い昔に出発して、今、ようやく私たちのところに届いている光もあるということなのです。私はそんな星の光を見ると「おつかれさま、ようこそ地球へ。」と言いたくなるのです。

ところで、太陽は私たちにとっていちばん関係の深い星ですが、地球と太陽の大きさがどのくらい違うかとか、どのくらい離れているかなどはほとんどの人が正確には知らないらしくて、次のような話をするとないていの人にはびっくりします。

たとえば、太陽をりんごと同じくらいの大きさだとしましょう。そうすると地球はどのくらいの大きさになるでしょうか。みかん、ピンポン玉？・・・いいえ、実はひとつぶの砂くらいの大きさなのだそうです。

では、手のひらにりんごを置いてください。これは太陽です。さて、地球をあらわすひとつぶの砂は、このりんごからどのくらい離れたところにあるのでしょうか。5メートル、3メートル？・・・おや、あなたはもっと近いところとと思っているようですね。実は私も2メートルくらいかなと思ったのですが、正しい答えは10メートルだそうです。ひとつのりんごと、10メートル離れたところにあるひとつぶの砂、これが太陽と地球の関係です。

いかがですか。宇宙の大きさと人間の小ささを感じませんか。

【新出単語】	ちきゅう（地球）	ほし（星）	ながめる（眺める）
	うちゅう（宇宙）	てんもんがく（天文学）	ふしぎ（不思議） - な
	きんせい（金星）	よぞら（夜空）	かがやく（輝く）
	ひかり（光）	つまり	しょくぶつ（植物）
	ようやく	おつかれさま（お疲れさま）	ようこそ
	たいよう（太陽）	はなれる（離れる）	そうすると
	ピンポンだま（玉）	つぶ（粒）	すな（砂）
	てのひら（掌）		